

2022年1月16日

劇団ドルフィン第3回公演 未来への選択 2ways

<劇中講演会資料>

今こそ転換の時

「人間ファースト」から

「地球ファースト」へ

宇宙物理学博士 御湯川 英世

登場人物と登場シーン

御湯川 英世 博士…岡山宇宙物理学研究所、
現在の地球、パラレルワールド A、B(2050年)

栗田 夢子 助手…岡山宇宙物理学研究所ほか
地獄の王(闇の支配者) ルシフェル…

現在の地球、パラレルワールド A、B(2050年)
ガイア(地球)の意識…

パラレルワールド A、B(2050年)

AI(人工知能)ハナコ…現在の地球

AI(人工知能)オシリー…

パラレルワールド A(2050年)

環境学博士 ディビッド山田…

パラレルワールド B(2050年)

※この物語はサイエンスフィクションです。登場する人物・団体・名称・ストーリー・内容等は

架空であり、実在のものや事実ではありません。(脚本執筆 2021年8月)

◇ AI ハナコの未来予測レポート（現在の地球）

人類が目指す地球温暖化対策は、各国の思惑から、足並みがそろわず、CO²を含む温室効果ガスの抑制に失敗し、地球の平均気温が、2.0度上昇した時点で、気候の限界点を超え、加速度的に北極と南極の氷を含む地球上の氷がすべて溶けだし、海岸線が50m以上上昇するでしょう。

気候の限界点を超えると、気温は上がり続け、大地は砂漠化し、緑は著しく減少し、食料生産もままならず、地上は急激に生物が生存できない不毛の地となっていくことでしょう。

そして、海洋でも、海水温が上がり続け、酸性度は増し、世界中のサンゴが死滅し、それまでの行き過ぎた乱獲から、大型魚が絶滅するとともに、生態系が崩壊した海では、海洋生物が急速に減少し、死の海と化していくことでしょう。

さらに、気候変動により、天候は不安定となり、干ばつや局地的大雨、大型の台風やハリケーンなどの自然災害が著しく増加するでしょう。

また、その間、地殻の活動も活発になり、大きな地震や津波、火山の噴火が頻繁に起こり、地球を覆うプレートの移動も活発に起こり、地上がその姿を大幅に変えていくことになるでしょう。

2020年から2050年までの30年間で、気候の変動を引き金として、人類のこれまでの行為と活動の結果によって、自然のバランスを崩し、地球は50%以上の確立で、6回目の大絶滅時代に突入する可能性が濃厚です。

今後の人類の舵の切り方によって、この動向は変わっていきます。

◎ このほかの起こりうる現象

- 増え続けるごみや化学物質の垂れ流しによって、自然や生体内の正常なサイクルが破壊され、生物の奇形や先天性疾患、病気が爆発的に増えるでしょう。
- 地殻変動と海岸線の上昇によって、大きく世界地図が変わるでしょう。
- 地磁気の移動が加速し、S極とN極が反転する可能性があります。地球は過去に何回か地磁気が反転しており、その結果、磁力線が不安定となり、宇宙放射線が増し、温められた極の氷が雨雲となって地球を覆い、寒冷化を招き、過去には氷河期の引き金となりました。
- ポールシフトが起こる可能性があります。ポールシフトとは、地球の地軸が傾くことで、それが起こると、その後引き起こされる気候変動、地殻変動などのために壊滅的な被害が発生することが予測されます。
- 隕石の落下や天体衝突の可能性があります。地球は約6,500万年前に直径約10kmの天体がメキシコ・ユカタン半島に衝突し、恐竜やアンモナイトなどが絶滅したことが推定されています。このような衝突により、人類の大量絶滅が起こる可能性があります。現在、約10年後に衝突可能性のある小惑星がすでに発見されています。
- 地域紛争から核戦争へ発展する可能性があります。気候変動によって引き起こされた食料危機や大災害、天然資源の獲得競争から、国同士の紛争が始まる可能性は高く、それは最終兵器の使用、核戦争にまで発展するでしょう。
- 宇宙人からの干渉や侵略の可能性があります。各国の情報公開により、UFOや知的生命体の存在が明らかにされてきていますが、宇宙人は地球の動向を見守っていると考えられます。もし、このまま地球が破滅の方向に向かうようなら、まだまだレベルの低い人類に対して、宇宙人からの干渉や攻撃、そして侵略の可能性もあります。

◇ パラレルワールド A 2020 年から 2050 年までの人類の歩み (AI オシリーが語る未来の姿)

- 人類が目指す地球温暖化対策は、それぞれの国や企業、個人の思惑から、足並みが揃わず、地球の平均気温が 2.0 度上昇し、気候の限界点を超えました。
- 気温は上がり続け、北極と南極の氷を含む、地球上の氷がすべて溶けだし、海岸線は上昇しつづけ、多くの都市が海に沈みました。
- 地上は砂漠化が進み、広大な農地が不毛となり、森林も減少し、生活に必要な水や食料の確保も難しく、各地で紛争が起きました。
- 海も海水温が上がり続け、酸性度は増し、世界中のサンゴが死滅し、行き過ぎた乱獲から、大型魚が絶滅するとともに、海洋の生態系が崩れ、生物が急速に減少し、死の海と化していきました。
- 天候も不安定となり、干ばつや山火事が相次ぎ、大型の台風やハリケーン、局地的大雨などの自然災害も増加しました。
- 世界中で大きな地震や津波、火山の噴火が頻繁に起こり、日本は、大地震の後、プレートの崩壊と移動により、2つの島を残して海に沈みました。このほか世界各地で、海面上昇や地殻変動、プレートの移動等で、大幅に地球はその姿を変えていきました。
- 食料と資源確保に端を発した、国家間や民族間の紛争が勃発し、それが世界の覇権をめぐる争いに発展したとき、核を保有する国やテロ組織からたくさんの核攻撃が行われました。
- 核攻撃の結果、大気中に、噴煙と放射能がばらまかれ、世界中で雨雲が発生し、地球が暗雲で覆われてしまいました。
- 小惑星が地球に衝突し、大きな衝撃とともにポールシフトが起こり、地軸が傾き、気候変動や地殻変動に拍車をかけ、人類に壊滅的な被害をもたらしました。
- わずかに生き残った人類は、地下にもぐり、AI にその生存と管理をゆだねました。
- 食べ物は、最低限の肉体維持のための栄養ドリンクだけです。

◇ パラレルワールド B 2020 年から 2050 年までの人類の歩み (未来人 環境学博士デビット山田氏の解説)

あれは、2019 年の終わりごろに発生した、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが契機でした。

2020 年頃までに、気候変動、環境破壊、人権問題などの対策として、国連などが主導し、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)において、温室効果ガス削減を含む地球温暖化対策や、持続可能な開発目標 SDGs などが打ち出され、2020 年～2030 年までの世界的な目標が定められました。

それは、人類のそれまでの 50 年間の行為によって、地球に与えた

壊滅的ダメージの流れを食い止めるためだったのですが、その時の人々は自覚と反省が足りず、遅々としてそれらの対策は進みませんでした。

そんなとき、新型コロナウイルスが猛威を振るいました。経済活動もままならず、人の移動も極端に制限され、それまで回っていた人間の活動の歯車が一瞬止まりました。国家も地域も分断され、人類にとっては大打撃でした。

ところが、その人類の活動を停滞させた時間が、これまで行ってき

た行為を振り返り、未来を考える機会を与えました。人々は、静かに流れる時の中で、鳥たちのさえずりを聞き、心地良い風を肌で感じ、生命の輝きを見ました。そして、子供たちの無邪気に遊ぶ姿に、愛おしい気持ちが湧きました。

そのとき、ようやく、わたしたちはこの生命あふれる星に、生かされ、愛されてきたことに、多くの人たちが気付いたのです。

『このままでは、地球が崩壊してしまう。わたしたちはなんて愚かなことをしてきたんだ。これまで地球からたくさんの愛と恩恵をいただきながら、もっと、もっとと、奪い続け、この地球を壊してきた。

申し訳なかった。どうか私たちの未熟さをお許してください。』

と、たくさんの人たちが反省しました。

それから、世界の姿も大きく変わりました。ある時点から、世界の主権は、国家主導型から、国連主導型に切り変わりました。そして、グレート・リセットにより各国の財政を苦しめていた負債を切り捨て、金融システムを再構築し、通貨体制を改め、社会システムのリフレッシュと世界の平準化に成功したのです。

人々の生活も変わりました。人の居住する区域と自然保護区域とが明確に分けられ、自然の生態系を保護、再生する仕組みができ、物の共同所有も当たり前になりました。

そして、ベーシックインカム制度が導入され、個人に生活給付金が

支給されるようになると、人々はそれぞれの才能に応じて、自分の好きな仕事や活動に取り組めるようになりました。

それから、食生活も大きく変わりました。多くの人々がベジタリアンになり、肉や魚を食べる習慣が無くなりました。

社会も大きく変容しました。社会規範が、経済から持続可能性にシフトしたことで、利益主体から倫理主体に、自然からの一方的な収奪ではなく、循環を配慮した生産に変わり、化石燃料の使用もゼロになりました。

2020年ころに比べると、はるかに暮らしやすく、世界中の人々が自由で平等で、幸せを感じられる社会になったと思います。

そして、人類が精神性を向上させたとき、宇宙からの使者が正式に訪れたのです。人類は最初はとまどいましたが、宇宙人類の精神性と科学技術の高さに驚かされ、宇宙連盟の一員になることを同意したのです。

その時から、宇宙人との交流が始まっています。小惑星の地球への衝突も、宇宙人との共同作戦で回避することができました。

今こそ目覚めと転換の時 「人間ファースト」から「地球ファースト」へ それこそが、地球と人類を救う道 宇宙物理学博士 御湯川 英世